

# 避難するときの注意事項



## 1.あわてて避難を開始しない

避難をするときには落ち着いて行政や気象庁からの情報の確認、テレビやラジオの放送を確認した上で、余裕を持って避難できるようにしておきましょう。

慌てて避難すると、忘れ物やガスの元栓の締め忘れ、鍵の閉め忘れ等の可能性もあります。また、大雨時には道路の冠水や河川の氾濫等、地震時には道路や家屋の破損により、普段の道が全く違うものに見えることがあります。避難路を間違ったり、転倒する危険性もありますので、足元を十分確認し、確実な避難を心がけましょう。

## 2.河川や側溝の近く・がけ等の近くを通らない

大雨や台風の時には河川が氾濫したり、道路が冠水して非常に危険です。大人の足首近くまで水位があり流れが速ければ動けなくなることもあります。

また、がけ等の近くでは大雨や地震によるがけ崩れの可能性があるため、できる限り避けて通らしましょう。地震時には余震が続く場合もありますので、崩れやすいブロック塀や窓ガラスの近くは避けて通らしましょう。

## 3.避難時には車は使わない

避難所には限られた数の駐車場しかありません。多くの方が車での避難をすると渋滞が発生し、緊急車両が通れなくなってしまいます。

また、車が水に浸かると動かなくなったり、水圧で扉が開かなくなったりして非常に危険です。車での避難は特別な場合を除きやめましょう。

## 4.エレベーター等の電気が必要な設備を使わない

災害発生時には落雷や電線の切断等で電気供給がストップする恐れがあります。

エレベーターは途中で止まってしまい、閉じ込められる危険性があります。また、エスカレーターも急に稼働が止まり、転倒する危険性がありますので、避難するときは階段を利用しましょう。

## 5.隣近所への呼びかけ

単独避難は避け、二人以上での行動を心がけましょう。

高齢の方や子供・病気の方は早めの避難が必要です。近所の高齢者や子供、病気の方等の避難に協力しましょう。

## 6.垂直避難

避難するとかえって危険を伴う場合や、避難所まで避難する時間がない場合には、自宅や近隣の強固な建物の2階以上（斜面と反対側の部屋）に避難しましょう。





# 大雨に備える

長与町ハザードマップ等を活用し、家庭で避難場所、避難ルート、家族との連絡方法を確認しておきましょう。また、非常用持ち出し袋を準備し、すぐに持ち出しできる場所に備えましょう。  
※ハザードマップは町ホームページでダウンロードできます。また、地域安全課窓口でも配布しています。

## 1.安全な避難路の確認

大雨や台風時に避難する際には雨で視界が悪くなっていたり、道路が冠水していたりして、普段通っている道が全く違う道のように感じられることがあります。

普段からハザードマップ等を利用して、避難所までの安全な避難路を確認してきましょう。

- ①ハザードマップで色がついている所(危険箇所)は大雨等の時はできる限り通らないようにしましょう。
- ②ハザードマップに色がついていない場所でも実際には危険な道もあります。  
日頃から、家族や友人と実際に歩いてみて安全かどうかの確認をしましょう。
- ③避難路が決まったら、ハザードマップに避難経路を書いておきましょう。



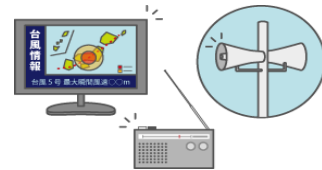
## 2.防災情報の入手方法を確認しておきましょう。

町や行政機関、またはテレビやラジオといった様々な方法で情報が発信されます。情報の入手方法や用語の意味を確認し、避難する準備を整えましょう。

- ①長与町や気象庁等の行政機関から発信される情報の入手方法を確認してきましょう。  
長与町からの情報はメールや電話等で確認できます。  
(参考：長与町ホームページ「防災情報」バナー)  
また、テレビやラジオからの情報にも注意しましょう。

- ②防災情報の種類等を知っておきましょう。

### 《町から出される避難情報》



危険度 小 ↓ 大	①避難準備・高齢者等避難開始：避難のための準備や自主避難を検討してください。避難に時間がかかる方は避難を開始してください。
	②避難勧告：災害が発生する危険性が高くなっています。速やかな避難を勧めます。
	③避難指示(緊急)：極めて危険な状況です。直ちに避難をしてください。

## 3.避難する前の準備

- ①避難時の持ち出し品の確認をしてきましょう。(参考：持ち出し品リスト)
- ②家族等の緊急連絡先を確認しておきましょう。  
災害時には携帯が繋がりにくくなったり、充電できずに使えなくなったりします。  
携帯の電話帳に登録していても電源がなければ確認できなくなりますので、緊急連絡先等を紙等に控えておきましょう。  
また、NTT等が提供する「災害用伝言板」を利用できるように、体験利用日に実際に使ってみたりしましょう。
- ③緊急時の家族の集合場所を決めておきましょう。

# 地震に備える

過去の地震では、多くの方が倒れた家具の下敷きになって、尊い命を失ったり、大けがをしています。

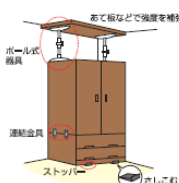
しかしながら、実際に家具の転倒防止対策を講じている人の割合はまだまだ少ないのが現状です。

「地震では家具は必ず倒れるもの」と考えて、日頃から家具の固定や配置の見直しで「安全空間」を作りましょう。

## ○家具の固定

### タンス

ボール式器具はタンスの奥の方(壁側)で、天井や家具の硬いところに取り付けます。また、天井側だけでなく床の側もストッパーなどで固定し、上下に分かれている家具は連結しておきましょう。



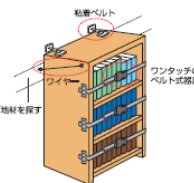
### 食器棚

食器棚の本体はタンスと同じように金具などを用いて固定します。また、開き戸が開かないようにとめ金を付けたり、ガラス部分にガラス飛散防止フィルムを張ったりして、ガラスや食器が凶器にならないよう工夫しましょう。



### 本棚

タンスと同じように、壁の中の硬い所や下地材のあるところを探して、金具やワイヤーなどで固定します。また、本棚の端の硬い部分にヒモやベルトなどを取り付けて中の本が飛び出さないようにしましょう。



## ○家具の配置

### 家具を置かない

寝室や子ども部屋など、家族やお子様長時間を過ごす部屋には、できるだけ家具を置かないようにしたり、背の低い家具だけをおくようにしたりして、工夫しましょう。

### 家具の向きと配置

万が一家具が倒れてきたときに、寝ている人や、座っている人に家具が直撃しないように、また、出入口をふさいでしまわないように、家具の向きや配置を工夫しましょう。

## ○「緊急地震速報」を聞いたなら

「緊急地震速報」は、地震による強い揺れが来ることを、携帯電話や防災行政無線等を通じてみなさんにすばやくお知らせする情報です。「緊急地震速報」を見聞きした場合は、まわりの人にも声をかけながら、あわてずに身の安全を確保しましょう。

#### 家庭では

- 頭を保護し丈夫な机の下などに隠れる
- あわてて外に飛び出さない
- 無理して火を消そうとしない

家の耐震化や家具を固定するなどして、逃げる場所を確保しましょう。

#### 人がおおぜいいる施設では

- 係員の指示に従う
- 落ちついて行動する
- あわてて出口に走り出さない

#### 自動車運転中では

- あわててスピードをおとさない
- ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意を促す
- 急ブレーキはかけず、緩やかに速度をおとす
- 大きな揺れを感じたら、道路の左側に停止する

#### エレベーターでは

- 最寄りの階で停止させ、すぐに降りる

#### 屋外では

- ブロック塀の倒壊などに注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意
- 丈夫なビルの上にはあそばせ、ビルの中に避難する

#### 鉄道・バス乗車中は

- つり革、手すりにしっかりつかまる

#### 山やがけ付近では

- 落石やがけ崩れに注意